

富草野菜の販売促進及び生産拡大

取組に至る背景・事業の目的

富草地区は第三紀中新世富草層の堆積岩層、通称「第三紀層」である。堆積物はカルシウムなどのミネラルが豊富に含まれるため、米や野菜等農作物の栽培に適すとされており、収穫された大根はフルーツのように甘くやわらかいことに着目し「三紀層大根」と命名した。

町内小中学校の学校給食への食材提供とともに、食育活動として種まきから収穫までを児童・生徒とともに取り組んで来た。

しかし、会員の高齢化による減産や安売りによる農家所得の低下が、会員の減少や生産意欲の減退を招いてしまった。

そこで、第三紀層で生産される「富草野菜」のブランド化を図り、美味しく、安心・安全で高付加価値な野菜の安定供給を目指すこととなった。

事業内容

富草野菜の販路拡大のため、富草野菜のポスターとロゴマークを作成し、地域外に情報発信した。また、町内のJAや観光施設において野菜の販売、試食イベント（3回）を行いPRした。

事業効果

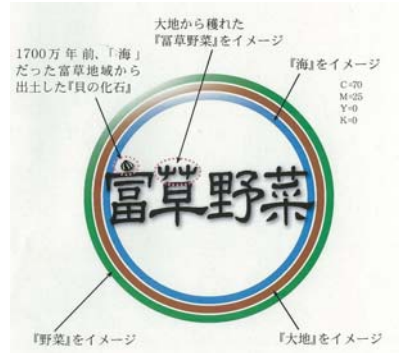
大根を中心とした「富草野菜」には、ロゴシールを貼ることで一般野菜と区別している。直営の直売所、ニシザカ及び各種イベント等で販売しているが、売れ行きは好調でリピーターも多く、関東・中京方面等からの引き合いも強い。

チラシ、ポスターでの宣伝効果が徐々に表われ、知名度の向上とともにブランド化が定着がしつつあり、新たな展開が期待される。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

生産量の増加と農家所得の向上を図るため、三紀層圃場の整備拡充、多品目栽培が可能な生産体制の確立、農産加工による高付加価値化や流通経路の開拓、高品質で高収益なブランド野菜の増産を目指す。

平成24年度から町の助成を受け、「海の恵み客土事業」に取り組んでいる。これは三紀層を客土し、三紀層圃場を拡大整備し富草野菜の安定生産を図ることを目的に取り組んでいる。（事業規模；5年間2ヘクタール）



【ロゴマーク】



【収穫の様子】

【選定のポイント】
第三紀層と呼ばれるミネラルが豊富な土壌を活かし、その土地で取れる野菜を「富草野菜」としてブランド化へ繋げる効果的な取組である。ロゴマークを創作し効果的にPRしており、都市圏への販路拡大が期待される。

団体名	化石の里産直組合（阿南町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0260-27-2663	事業費	451,500円
		支援金額	451,000円